

平成20年度 府立福知山高等学校三和分校 学校経営計画 (最終評価)

平成21年3月19日

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
地域・保護者の期待に応える学校づくりの推進 1 基礎学力の向上と希望進路の実現にむけて、生徒個々の実態に応じた指導を徹底する。 2 調和のとれた人格の育成にむけて、体験活動を重視する。	(成果) 1 4年生は、1名を除き全員が卒業した。 2 教育相談会議・学習支援研究会議の充実により、個々の生徒の実態に応じた指導が定着してきた。 3 行事・クラブ活動が充実したものとなり、全国大会・近畿大会出場者も過去最多となった。 4 農業科・家政科の取組で地域の期待に応える学校づくりができた。 (課題) 1 「わかる授業」基礎学力の定着を図り、原級留置・中途退学の防止に努める。 2 各種障害のある生徒の指導計画と授業実践の研究を行う。 3 生徒どうしの理解を深め、いじめのない学校づくりに取り組む。 4 全員が卒業までに就労体験等ができるよう取り組む。	1 基礎学力の定着 「わかる授業」の実践と、生徒の個々に応じた基礎学力を定着させる。 2 原級留置・中途退学の防止と希望進路の実現 個々の生徒の実態の把握に努め、原級留置・中途退学の防止に取り組むとともに、4年生全員の希望進路を実現する。 3 社会人になるための自覚を促す指導。 基本的な生活習慣の確立を促し、体験を重視する中で豊かな人間性や社会性を養う取り組みを実施する。 4 学習支援研究の充実 各種障害のある生徒の指導方法や授業実践を研究する。 5 広報活動の推進と地域連携 苗販売等各種行事の充実により、地域連携を深めるとともに、学校だより・ホームページの内容を充実させ、広報活動を推進する。 6 安心で安全な学校づくり 事故のない、いじめのない学校を作る。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	・学校の自己評価を生かし、教育目標達成に向けた組織体制を確立する。	・学校経営計画に基づき、各分掌教科が具体的成果を上げるよう、各種会議を基軸に組織の連携を密にする。 ・分掌・教科で具体的課題解決に向けた取り組みを強化する。	B	B	・会議を定例化して実施し、連携し組織的に対応できた。 ・家政・農業科の活動が地域と結びついて実施できた。 ・中学校、保護者への授業公開学校説明会が実施でき、三和分校だよりの発行ができた。
	・地域、保護者、生徒のニーズに応え、開かれた学校作りを推進する。	・広報活動を活発にし、学校説明会・学校公開を実施する。	B	B	
基礎学力の定着	・生徒の実態をふまえたわかる授業の実践	・学力の実態把握につとめ、分かる授業を工夫し展開する。基礎学力の定着につとめる。 ・学習支援教師の活用により、課題のある生徒の基礎学力を定着させる。	B	B	・知的な障害・遅れのある生徒の学力の定着については課題がある。 ・学習支援教員の援助が課題のある生徒の進級・卒業に向けての手助けとなった。 ・全国学力テストを本年も実施し実態把握に努めた。 ・評価のあり方について研修し学校全体のものとする必要がある。
	・基礎学力講座・トライ学習・ベシック講座の充実	・各講座・学習を有効利用し、生徒の基礎学力を充実させる。	B	B	
	・学力面で課題のある生徒への支援	・個別の課題を明確にし、関連教科へ働きかける。 ・各教科の課題や目標を明確にし、到達のための手だてをたてる。	B	B	
	・授業内容と評価の検討	・個々の生徒に応じた、「授業の実践」や「評価の在り方」を検討する。	C	C	
原留中退の防止と希望進路の実現	・課題のある生徒への支援を充実し原級留置・中途退学を防止する。	・個々の課題を明確にし、適切な指導をする。 ・家庭との連携を密にし、遅刻・欠席を防止する。	B	B	・生徒指導を含め、家庭・出身中学校との連携を深める必要がある。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
原留中退の防止と希望進路の実現	・希望進路の実現	・アルバイト等の就労体験のない生徒の実態を把握し就労を促す。 ・家庭や関係機関との連携を図り、就職や進学に関する指導・援助を行う。	B	B	・農業検定と関連させ、資格取得に取り組ませた。 ・特別に配慮を必要とする生徒の能力を見極め、会話力・文章作成力等を身につけさせる必要がある。 ・担任・事務部との連携の元で各種援護制度の活用を推進した。
	・援護制度の意義を理解させ、その周知徹底をはかり修学・進路保障する。	・経済的課題を把握し、活用を促進する。ガイダンスを充実させ、活用促進にむけた相談活動を充実させる。	A	A	
社会人になるための自覚を促す指導	・人権教育を計画的に進め、自他を尊重する人権感覚を養う。	・体験的な学習を取り入れ、生き方・在り方を考えさせる機会をつくる。 ・アンケート結果の分析等から課題を整理し、計画的系統的な人権学習をすすめる。	C	B	・アンケート結果に基づく人権学習に取り組めた。 ・基礎的生活習慣確立をめざし、校門等で挨拶の励行につとめた。 ・部活動への支援や指導は一定できたが、更なる努力が必要である。 ・家庭クラブ活動の定例化とボランティア活動の継続ができた。 ・農業クラブ活動の更なる活性化が望まれる。 ・月1回、全教職員が参加し、教育相談会議が実施できた。2回の研修会も事例研究の形をとり、生徒の実態把握と指導のポイントを確認し取り組むことができた。
	・あいさつの励行	・基本的生活習慣・学習習慣とともに「あいさつ」の励行につとめる。	A	A	
	・部活動の活性化	・部活動を通して生徒の自主性を育てるため日常的に支援する。	B		
	・ボランティア活動の推進	・農業クラブ、家庭クラブの活動の活性化と社会福祉体験の推進に努める。 ・学校周辺の清掃活動を実施する。	B	B	
	・教育相談の充実を図る。	・個々の課題を明らかにし、スクールカウンセラーと共に教職員が一致して支援し心身の成長発達を目指す。	A	A	
学習支援研究の充実	・生徒の学力、認知等の実態把握につとめる。	・基礎学力調査等を利用して、生徒の実態把握を行い、適切な教材づくりをする。	A	A	・発達検査により正確な認知状況が確認できた。 ・教職員の研修により障害特性や認知特性の把握に努めた。 ・学習支援会議が持てず、担当者任せになり組織的な動きにできなかった。
	・「障害」と認知についての研究を実施する。	・発達障害の特性と認知の独自性を学び、授業づくりに役立てる。	B	B	
	・学習支援の方法、内容の検討	・課題を持つ生徒のニーズにあわせた支援の方法やその内容を検討し実践する。	C	C	
広報活動の推進と地域連携	・保護者・地域への広報活動を充実させる。	・「三和分校だより」「三和分校PTAだより」を充実させる。	B	B	・「PTAだより」をホームページに掲載した。 ・春・秋苗、玉葱苗などの販売に取り組み、文化祭での販売も実施できた。 ・JAや商店街との連携ができた。
	・地域との連携の推進	・農業科の生産物の販売を充実させる。 ・農業科・家政科で公共施設・地域との連携をはかる。	B	B	
安心して安全な学校づくり	・安心して学べる環境をつくる。	・「いじめ」「からかい」等に対して、全教職員一致して、迅速、丁寧かつ毅然と対応する。	B	B	・授業規律の確立といじめ・暴力を許さない校風整備につとめ、いじめなどに対して機敏に対応できた。 ・当番を決め朝の立ち番を実施、登校時の安全確保に努めた。
	・登下校を含めた学校生活の安全を確保する。	・朝の立ち番の実施する。	A		
		・バイク、自転車の交通安全教室の実施する。 ・校舎内および周辺の安全点検を実施する。	C	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
<p>安心して安全な学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内美化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別の徹底を図る。 ・農業科で校内の花壇を草花で飾る。 	<p>B B</p> <p>B B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別は、指導の徹底ができなかった。 ・花壇は課題研究で取り上げ学習させながら管理ができた。
<p>次年度への改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のある生徒を理解し、受け入れてくれる就職先の開拓に取り組む。 ・社会で通用するコミュニケーション力（あいさつや言葉遣い）、基礎学力（読み、書き、計算） 服装等についての指導を充実させる。 ・行政、生活支援センター等との連携を図り、就労体験をさせる。 ・知的な障害・遅れのある生徒の学習について、方法・内容につて研修する。 ・一般就労できない生徒への進路指導の方法について情報収集をする。 			